

# 樹医からのアドバイス (Vol.05)

～葉が茶色に…松くい虫とは違うようだが？～

出雲市樹医センター

樹医 西尾 光弘

近年、松にもさまざまな病気が発生するようになりました。特に相談が増えてきたのが「葉枯れ病」類です。

## 「葉枯れ病」類とはどんな病気？

松の「葉枯れ病」類で代表的なものは「褐斑葉枯がれ病」、「葉ふるい病」、「赤斑葉枯がれ病」の3種類です。互いに併発していることも多く、見分けるのは困難です。これらはカビ（糸状菌）による病気で、6月頃に感染します。症状が目に見えるのは秋から翌年の3月頃です。まず葉先から黄色い斑点が現れ、しだいに茶褐色に変化します。症状の現れた葉は薬を使っても治りません。しかし、翌年の新たな感染を防除すれば、病気を取り除くことができます。

## 防除方法は？

殺菌剤として、銅水和剤（キノンドーやドウグリ）があります。これは治療薬ではなく、あくまでも古葉から新葉への感染の予防薬です。新葉に対して6月に2回、7月に2回、2週間間隔で噴霧しましょう。この薬剤は、松くい虫防除のための殺虫剤（スミパインやスミチオン）と併用できます。

なお、その他の対策としては、土壌の改善を行うことや、樹木が本来持っている自然治癒力を生かすために、春のみどり摘みを行わず、秋の古葉取りを最小限にして葉の量を減らさないことなどがあります。



手当前



手当後